

鎌ヶ谷市長選挙から見たもの



ふじしろ政夫

今回、鎌ヶ谷市長選挙（2021年7/11～18）に挑戦しましたが、残念な結果（7630票）でした。市長選の意味を明らかにしたいと思います。

昨年1月からの新型コロナウイルス感染症パンデミックの1年半の間にこれまで私たちが作ってきた社会の根本的な矛盾・問題・脆弱性があぶりだされました。医療資源は効率目的で削減されておりコロナで医療崩壊、「居宅は基本的人権」がまったく実現されておらずコロナで路上生活へ、生活保障制度はボロボロ、自己責任の新自由主義はコロナにまったく対応できなかった、などなど。

数百年に一度とも言われるこの世紀の感染症危機に際して、前清水市長がコロナワクチン接種体制も安定していないのに市長職を投げ出し（衆議院選挙に出馬表明したとはいえ鎌ヶ谷市民の命を守るのが市長の役割）無責任にも6月議会の冒頭（6/10）に辞めてしまったがゆえの急遽の市長選でした。

「新型コロナ感染症制圧対策の問題」「コロナパンデミックの背景にある地球環境破壊の問題」「失われた30年（新自由主義の経済・社会）の間に作り出された諸問題」を解決しなければならない。それも基礎自治体鎌ヶ谷市で施策を展開していかなければならないということも明らかになっていました。

鎌ヶ谷市長選は単に首長の顔をどう変えるかの問題ではなく2021年という時代状況をどう捉えどう新しい社会を創り出していくかの分岐点であったのです。

それ故解決すべき方向は・・・

自然エネルギーの街

鎌ヶ谷市で自然環境の破壊を止める“自然再生可能エネルギーの街”をどう創っていけるか？コロナウイルスを生じさせた環境破壊の自然をどう“生態系ネットワークの街づくり”で再生していくのが大きな課題なのです。

コロナ対策としてのプライマリヘルスケアの街

コロナパンデミックに対応すべく“精密医療によるPCR検査（いつでもどこでも無料で）・コロナワクチン接種体制”を作ると同時に、プライマリヘルスケア（地域包括ケア）によって無症状から軽症・中等症・重症の感染者にたいする一貫した医療体制をどう作っていくのか？地域医療と公衆衛生の問題として鎌ヶ谷市のやるべきことが問われています。コロナパンデミックに対応できないほど崩壊させられた医療資源（保健所は半分に、感染症病床は5分の1に削減され）をどう回復させるのか？

自己責任社会から分かち合いの社会へ

医療従事者・介護士・保育士・ゴミ収集者といったエッセンシャルワーカーへのあまりにも低い評価。労働環境と処遇をどう改善するかも喫緊の課題です。

社会保障のカット、医療資源カット、基礎研究のカットといった新自由主義による自己責任社会ではコロナに何一つ対応できませんでした。しかも世界中の



99%が格差と貧困にあるといった状況を生み出した新自由主義の施策を展開しようとする鎌ケ谷市の方向性を変えていかなければなりません。

「非正規公務員を正規へ」「学校給食の無償化と有機食材化」と具体的施策を今こそ実現すべきことも明らかになりました。LGBTの方、女性への個人の尊厳を尊重する社会にするためにパートナーシップ条例をつくり、差別的な女性労働の是正として同一価値労働同一賃金を鎌ケ谷市政の中で実現していく必要があります。

「寝たきりでない介護」を作り上げ高齢者の尊厳を守る体制と福祉を。障がいのある人もない人も、コロナで生活苦の中にある人に対しても「出かける福祉」で互いに支えあい分かち合う政治・政策を実現していきたい・・・

11 万人鎌ケ谷市民一人ひとりが安心して暮らしていきける“人の安全保障”を実現する社会を創らなければ・・・そのためには新自由主義の自己責任社会を進める鎌ケ谷市の施策を“分かち合いの経済・社会”に変えていく必要があります。鎌ケ谷市政の現物給付サービスで一步一步実現できるのです。

広域交流拠点の街づくり

新鎌ケ谷の街づくりは単に道路を造ったりビルを造ることではなく「最先端の自然再生可能エネルギーの街」で再生エネルギー産業と雇用の創出。高齢者が寝たきりにならない介護を作ることや出かける福祉を実現するための“医療・介護・福祉事業”の育成と雇用の創出。労働者協同組合も導入しつつ一人ひとりが安心して暮らせるシステムや自治体を作ることこそ鎌ケ谷市の街づくりのはず。

日本一の“福祉の街鎌ケ谷”“自然エネルギーの街鎌ケ谷”を創っていくことこそ広域交流拠点の街づくりです。



オリンピックを強行し日本選手の金メダル獲得を喜んでいる間にコロナ変異株の感染は拡大の一途。一日2万人以上の感染者（鎌ケ谷市も累積1000人以上に）も・・・ワクチンも十分整わず、医療体制を拡充せず、PCR検査体制も作らずの第五波は医療崩壊へと突き進んでいます。

これらの課題をどう解決していくのかが今回の鎌ケ谷市長選挙の争点のはずでした。

市街化調整区域をはずしての新鎌地域の再開発（高度成長期の焼き直し）や、前市長の不十分なコロナ対策の継続を選択したとは思いたくないが・・・

又IT導入による街づくりは、市民参加・個人の尊厳を大切に作る仕組みを導入しなければ国家戦略特区＝スーパーシティの監視・管理社会をつくってしまう問題点があることを十分理解して判断したと思いたいが・・・竹中平蔵・菅政権が進めるショックドクトリン＝人権なしのデジタル社会の街にはしたくないものです。

今回の鎌ケ谷市長選は基本的にはコロナ禍における社会の根本的問題を解決するため、自己責任・新自由主義でなくお互いに支えあう分かち合いの経済・政治・社会の鎌ケ谷市政へと転換していくものとしてあったと思われま

ふじしろ政夫は、これからも“一市民”として“民主主義と自治そして平和主義”を鎌ケ谷で実現していきたい思いです。

*選挙後の挨拶は禁止されていますので、鎌ケ谷市の課題を述べさせていただきます。